

趣意書

謹啓

時下、貴社におかれましては益々御清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、第46回日本手術医学会総会を、2024年12月20日（金）・21日（土）の二日間、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で開催することになりました。

本学会は、手術部における業務を安全かつ円滑に遂行するための機構、施設、設備、機器、器材、運用その他に関する医学的研究の進歩を図り、これによって社会の福祉に寄与することを目的として1979年に手術部研究会として発足し、1993年に日本手術医学会と改称、2022年には一般社団法人として法人格を取得し今日に至ります。現在の正会員数は約1,400名です。大阪で本学会総会を開催するのは、1967年、1994年、1999年、2006年、2015年、2022年に引き続き7回目となります。

現在の手術医療は、外科医師、麻酔科医師、看護師、臨床工学技士、放射線技師、検査技師、薬剤師、滅菌供給業務担当者、事務職員、その他、清掃や物流管理などを担う委託業者職員など、多くの職種のスタッフによって支えられています。これらのスタッフが関わる業務内容は、単に手術手技や麻酔管理にとどまらず、周手術期看護、人材育成、予算管理と適切な執行、環境管理、医療機器管理、薬剤管理、滅菌器材の品質管理や物流管理、映像を含めた情報管理など多岐にわたります。手術部では、多職種によって遂行されるこれらの多彩な業務の質を継続的に改善し、患者さんに満足いただける高品質の医療サービスを提供することが求められます。そこで、今回の総会のテーマを「QMSで手術部を経営しよう」とし、手術部にかかわる多職種が一堂に会して、手術部組織の運営方針や手術部業務の品質目標、そして、その目標達成に必要な体制づくりを議論してまいりたいと存じます。

本来であれば、学会総会の開催費用は学会会員の参加費用で賄われるべきではありますが、会場費や諸般の経費の高騰により全体予算が不足することが予想されております。無駄を省き華美にならぬように運営する所存ではありますが、当学会および手術医学の分野に関連されるご関係者の方々におかれましては本学会の総会開催の趣旨にご賛同いただき、セミナー、機器展示、広告など各種共催・協賛につきまして格別のご高配をお願い申し上げます。

本来ならば参上し拝眉の上お願いすべきところですが、本書面をもちましてご挨拶とお願いを申し上げますをご容赦いただければ幸甚でございます。

末筆となりましたが、貴社の今後のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

謹白

2023年12月吉日

第46回日本手術医学会総会

会長 高階 雅紀

(大阪大学医学部附属病院 病院教授 手術部部長)

